

寅の大変 大深浦のお宮のほこら由来～酒井明 説話集20※～

嘉永7年11月5日というと安政の始めの年、ずいぶん前のこっちゃんが、寅の大変といわれた大地震が揺ったというこっちゃ。

年表を見ると諸国大地震とあるからあっちこちでも起り、ここらもそりゃあ大けな地震でおまけに津波でめっちゃめっちゃじゃっらしい。

片島から大深浦小深浦の前にかげちゃあ、まだまだ海が広がって鰯の大漁がありよったちゆう時代。大津波が来りゃあ、奥の方までおしよせて、とっと山手の方まで荒らしたこたあまちがいなからう。

大深浦のお宮は、田圃の中に突き出した小高いところに建てられちよるが、その境内にある祠。なんとこの時の地震津波に関係しちよるというこっちゃ。

その日は天気も良かったので、みんな気追うて仕事をしよっらしい。

船乗りたちもその通り。ところが突然の大地震。続いてやってきた大津波に船に乗った。あれよあれよと思う間に、帆前船はお宮の上まで持ち上げられ、にっちもさっちもいかんことになった。

船頭はお宮に祈って、どうぞもう一辺大津波をここまで寄せて下さいとお願いした。その願いが聞き届けられたものなのか、津波の勢いが強かったのか、まとも大津波がどっと押し寄せ、船を引き潮に乗せてどうにか出すことができた。

そのお礼にと船頭が寄進したのがこの祠という次第。地元の古老が話してくれるこの話。それほど大けな津波じゃったということよ。

※) 平成26年3月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。

